桜見ゆ

森野　水琴

彼は昨年に続き、長野県の高遠（たかとお）に来ている。
四月上旬、高遠城址公園の桜は開花したばかりであった。
周辺を見渡すと、丘の上の公園と違って、既に見頃の桜が点在していた。
丘をくだり、桜を楽しみ散歩しながら、彼は予約していたホテルに着いた。
ホテルの大浴場には、露天風呂もあった。
露天風呂から庭を眺めると、庭に置かれた灯篭に照らされた桜が見えた。
眼鏡を外して入浴していたので、おぼろげに見えるが、それも一興と夜桜を楽しんだ。
城址公園の夜桜は楽しめなかったが、桜を堪能し、ホテルに一泊して彼は東京に戻った。

週末、彼は実家のある北陸に行き、彼の母が入所している施設で母と面談した。
面談後、実家に着くと、庭の桜が満開であった。
ライトアップしない自然な夜桜を見たくて、彼は二十二時頃、庭に出た。
玄関のセンサーが反応して桜を照らす。
センサーライトが消えると、彼は懐中電灯を伏せるように地面に向けた。
意外と真っ暗ではなかったが、桜の淡いあかりが見えた。
満足げに桜を見上げて、彼はつぶやく。

暮れゆく空に　桜見ゆ